



第2章 那覇市における文化芸術の現状と課題



- 1 人口等の概要
- 2 文化芸術に対する市民意向
- 3 那覇市のイメージと魅力
- 4 文化活動状況
- 5 文化資源
- 6 那覇市の文化芸術の課題

第2章 那覇市における文化芸術の現状と課題

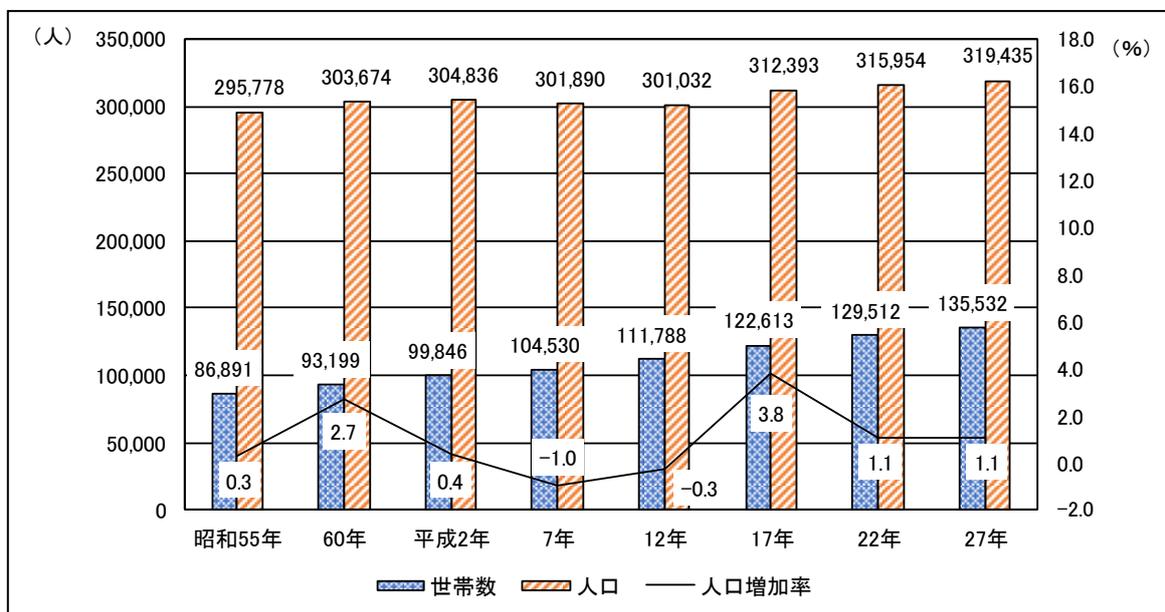
1 人口等の概要

那覇市の人口は、1985(昭和 60)年に 30 万人を超え、その後、減少傾向を示し停滞傾向にありましたが、2005(平成 17)年には再び増加に転じています。2015(平成 27)年の国勢調査では 319,435 人(2010(平成 22)年比 3,481 人増)となっています。

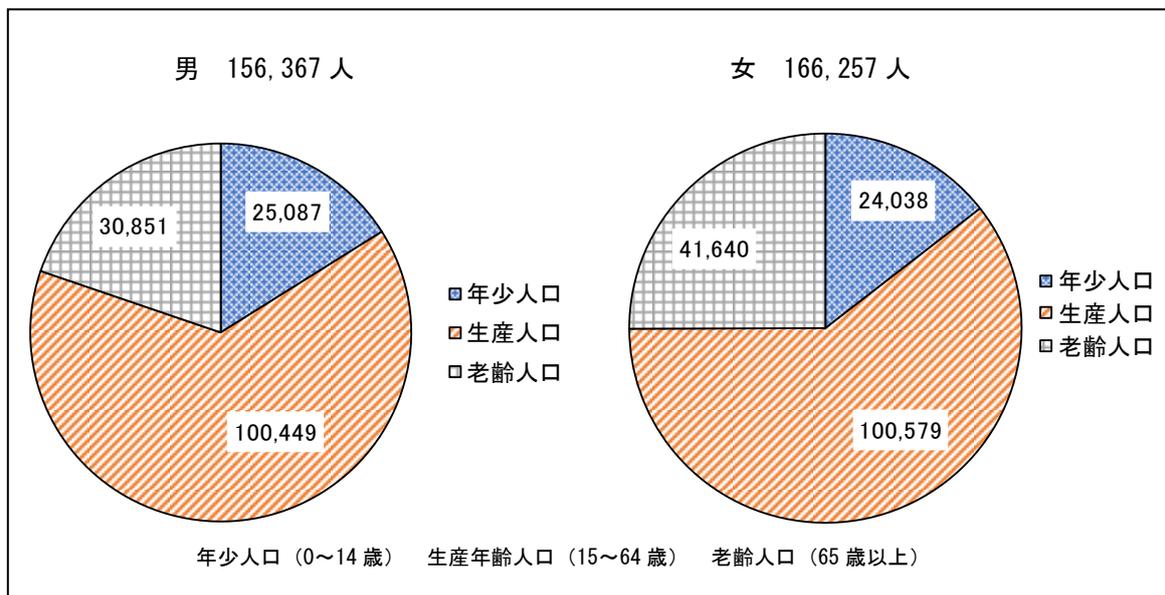
那覇市の将来人口の見通しは、2015(平成 27)年から 2020(令和 2)年にかけてピークを迎え、その後は減少に転じることが予想されています。

男女別の人口では、女性の方が約 1 万人多く、年齢別構造では、女性の老齢人口の割合が男性の老齢人口に比べ約 5 ポイント高い状況です。また、男女ともに老齢人口が年少人口の割合を上回り、少子高齢化社会が確実に進展しています。

【国勢調査人口の推移】

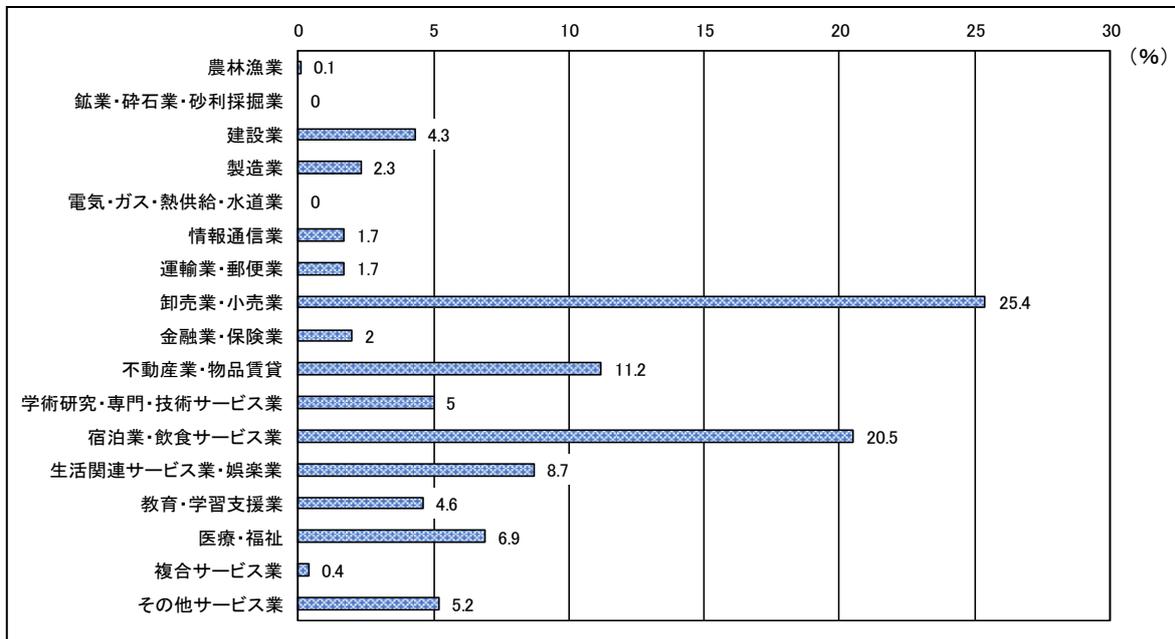


【人口の年齢別構造(平成 30 年 12 月 31 日現在)】



那覇市の産業は、第3次産業のウエイトが高い産業構造になっており、第3次産業のうち、事業所数では「卸売業、小売業(25.4%)」、「宿泊業、飲食サービス業(20.5%)」が多く、これらが市の事業所の5割弱を占めています。

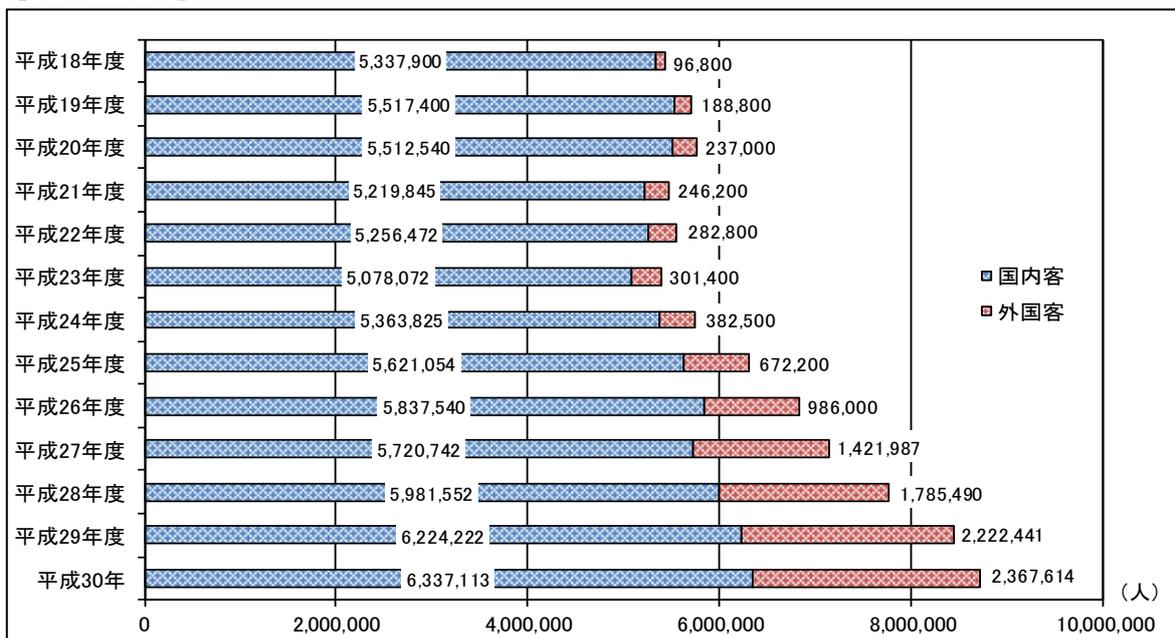
【事業所数(17,995カ所)】



資料：第58回那覇市統計書(平成30年版)

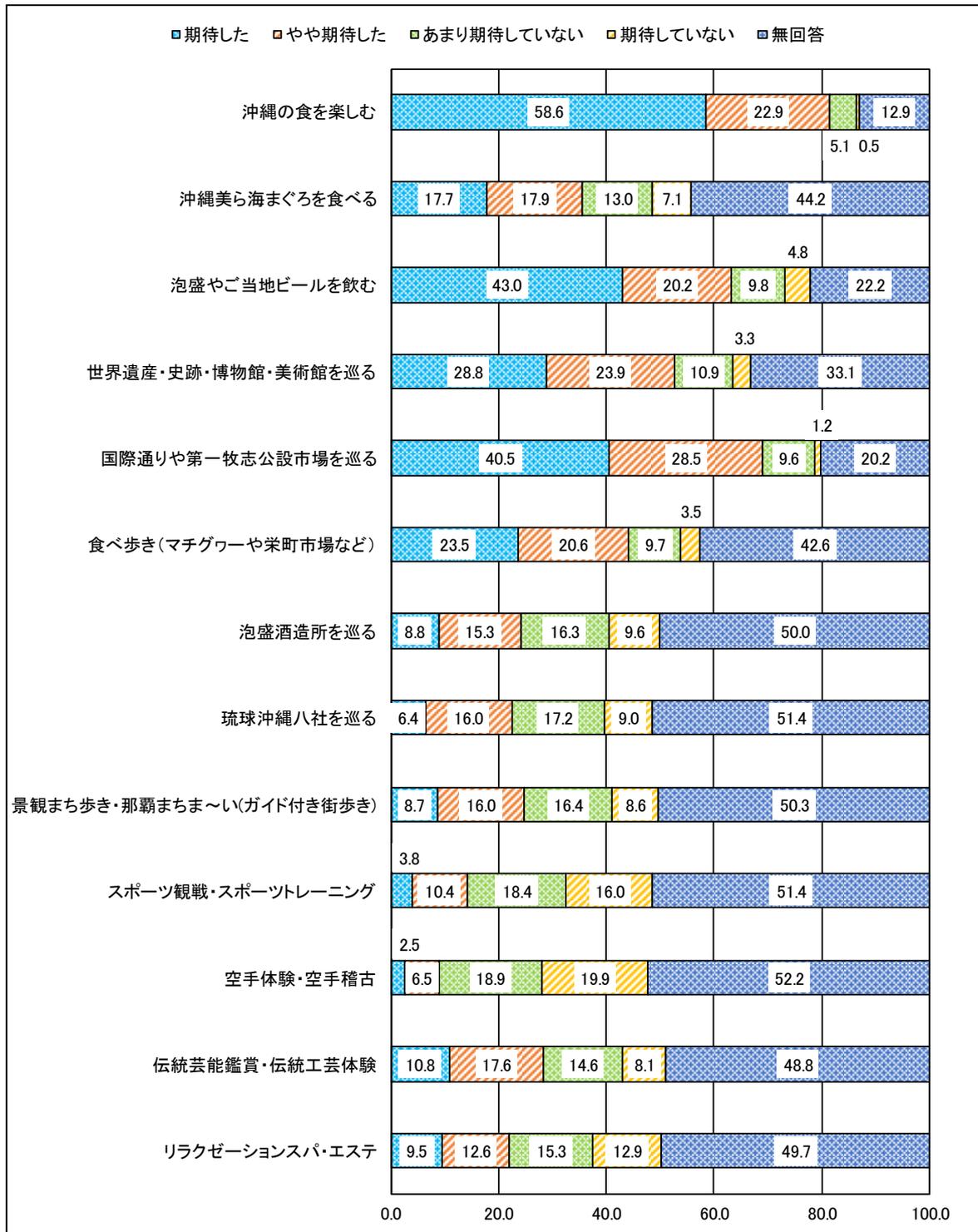
那覇市の2018(平成30)年の入込観光客数は870万人で、その内、外国客が約237万人であり、2013(平成25)年度以降、右肩上がりの増加傾向にあります。那覇市を訪れた観光客の期待度が高かった活動内容は、「沖縄の食を楽しむ」が最も高く、次いで、「国際通りや第一牧志公設市場を巡る」「泡盛やご当地ビールを飲む」「世界遺産・史跡・美術館を巡る」と続き、「食べ歩き(マチグラーや栄町など)」は5番目となっています。

【入込観光客数】



資料：那覇市の観光統計・観光客の声(平成30年版)

【那覇市を訪れた観光客の期待度】



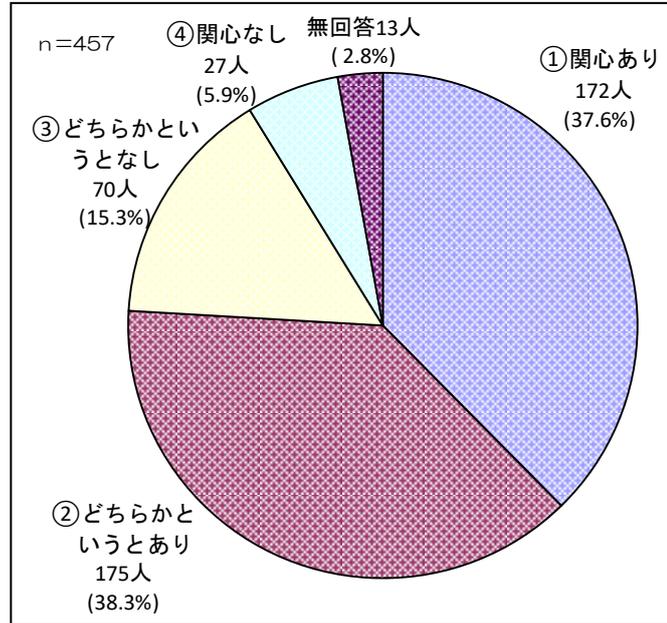
資料：那覇市の観光統計・観光客の声(平成30年版)

2 文化芸術に対する市民意向(平成 30 年度基礎調査結果より)

(1) 文化芸術活動の現状

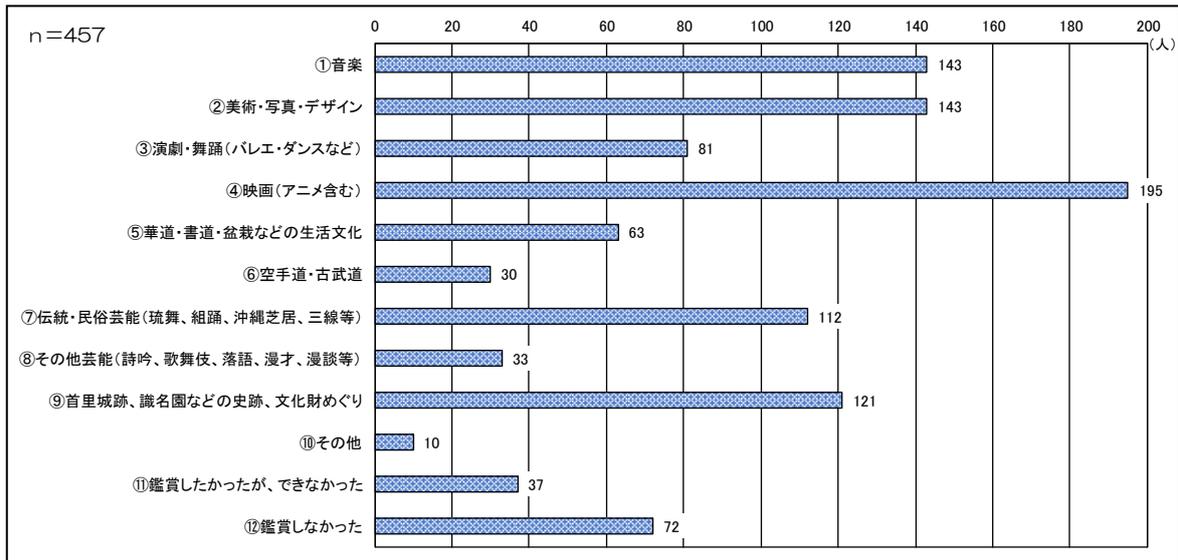
芸術の鑑賞や創作などの文化的体験や活動については、「関心がある」が 172 人(37.6%)、「どちらかというに関心がある」が 175 人(38.3%)であり、回答者全体の約 76%が関心を示し、市民の文化芸術に対する意識は高いことがわかります。

【芸術の鑑賞や創作などの文化的体験や活動について】



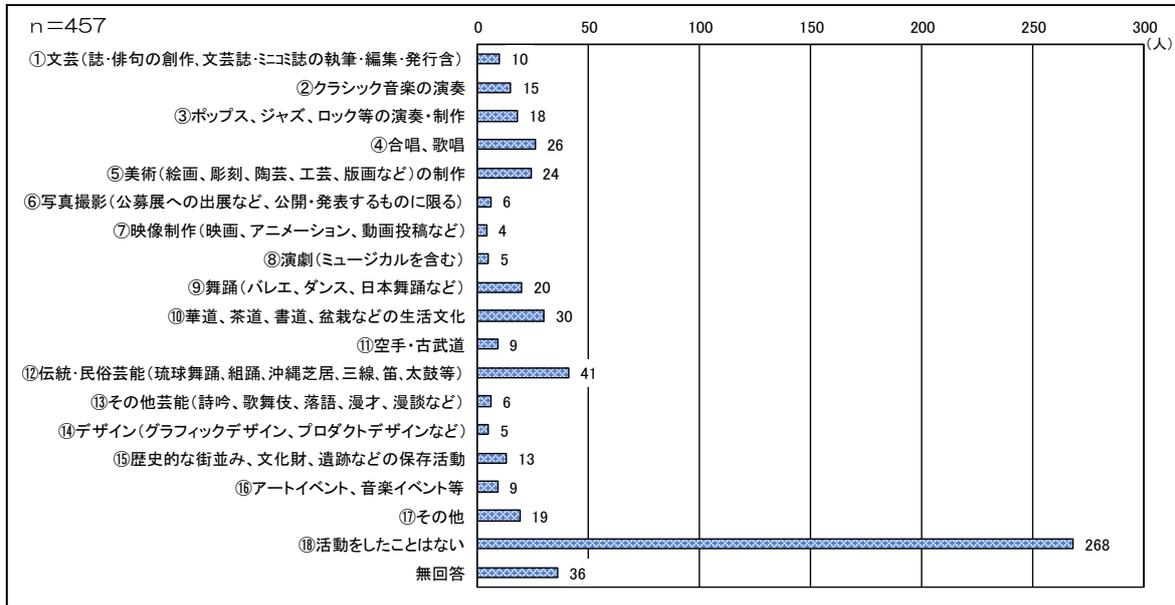
過去 1 年間のうちに鑑賞した文化的な催しや芸術等については、最も多くの回答を示したのは「映画(アニメ含む)」で、次いで「音楽」「美術・写真・デザイン」「伝統芸能等」「史跡、文化財めぐり」が比較的多く、一方で「空手道・古武道」、「その他芸能」などは少ない状況です。

【過去1年間のうちに鑑賞した文化的な催しや芸術等について】



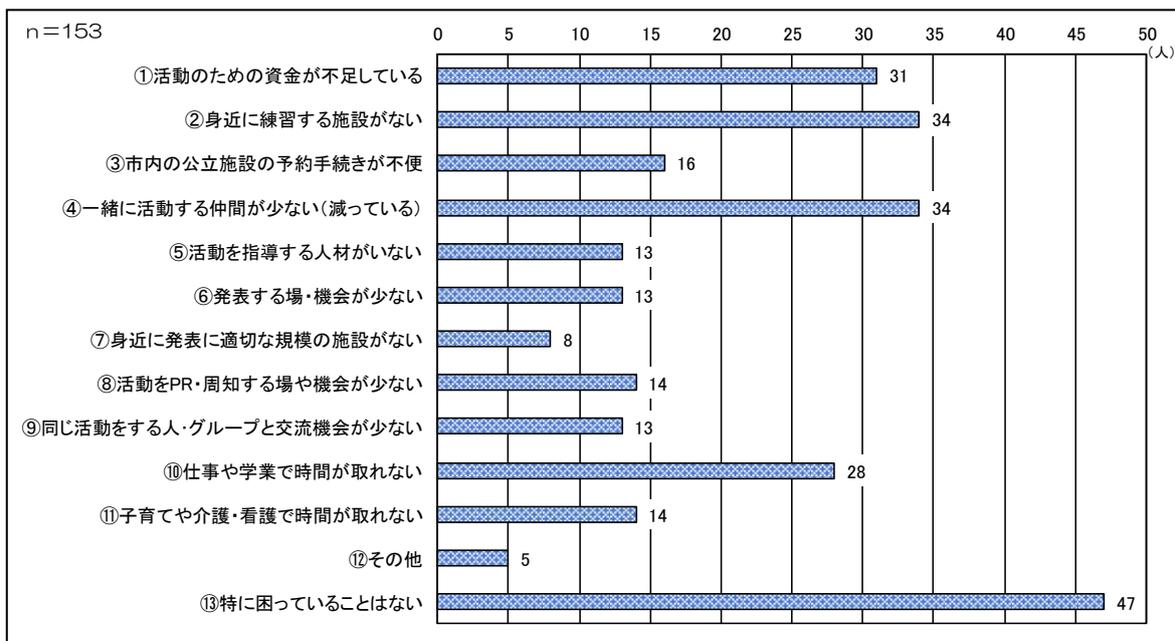
創作や公演・イベント等に関係する文化的な活動への参加については、「活動したことはない」が全体の約6割を占めており、自主的な活動は活発とはいえない状況が伺えます。

【創作や公演・イベント等に関係する文化的な活動への参加について】



文化芸術に関わる活動をする上で困っていることについては、「特に困っていることはない」が最も多いですが、困っていることに関しては「練習する施設がない」や「一緒に活動する仲間が少ない」、「活動資金が不足している」などが多く、また、「仕事や学業で時間が取れない」といった日常生活の中で時間的な余裕がないとの意見も比較的多くあります。

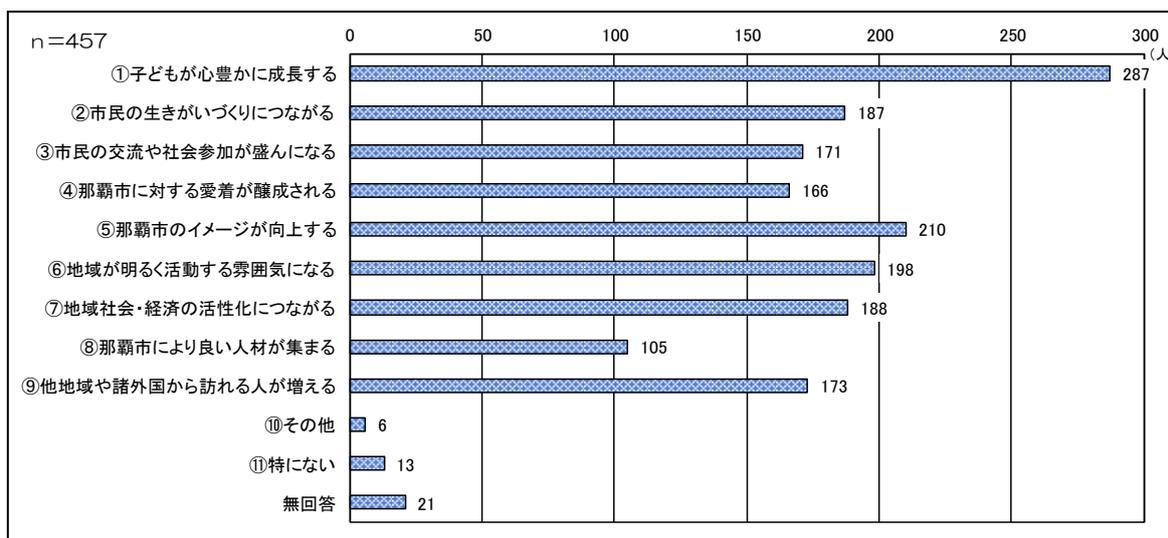
【文化芸術に関わる活動をする上で困っていることについて】



(2) 市民が求める「文化芸術」に対するニーズ

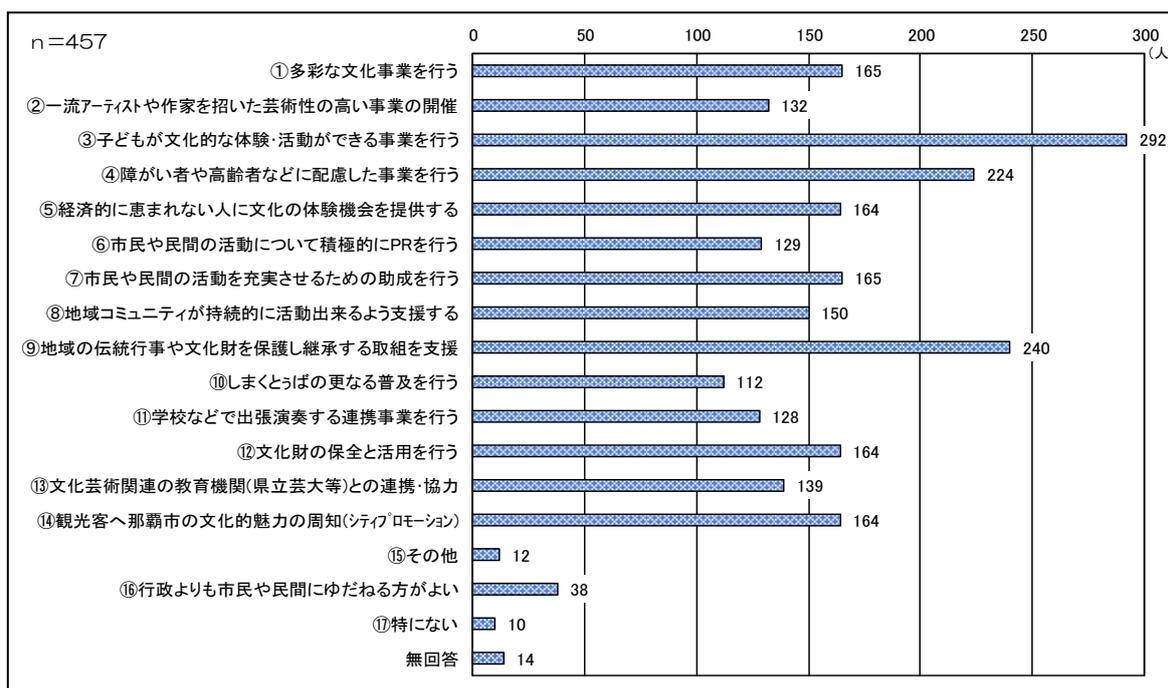
那覇市の文化的環境(鑑賞機会、芸術活動の参加機会、文化財や伝統的まちなみの保存・整備など)が充実した際に期待する効果については、「子どもが心豊かに成長する」が突出して多く、そのほかには平均的に意向が示されています。その次に多い意向は「那覇市のイメージが向上する」「地域が明るく活動する雰囲気になる」「地域社会・経済の活性化につながる」などとなっています。

【那覇市の文化的環境が充実した際に期待する効果について】



那覇市が文化的なまちであるために行政が行うことについては、「子どもが文化的な体験・活動ができる事業を開催する」や「地域の伝統行事や文化財を保護し、次世代に継承する取組を支援する」、「障がいのある方や高齢者などに配慮した事業を行う」などの意向が多くあります。一方「しまくとぅばの更なる普及を行う」は少ないものとなっています。

【那覇市が文化的なまちであるために行政が行うことについて】

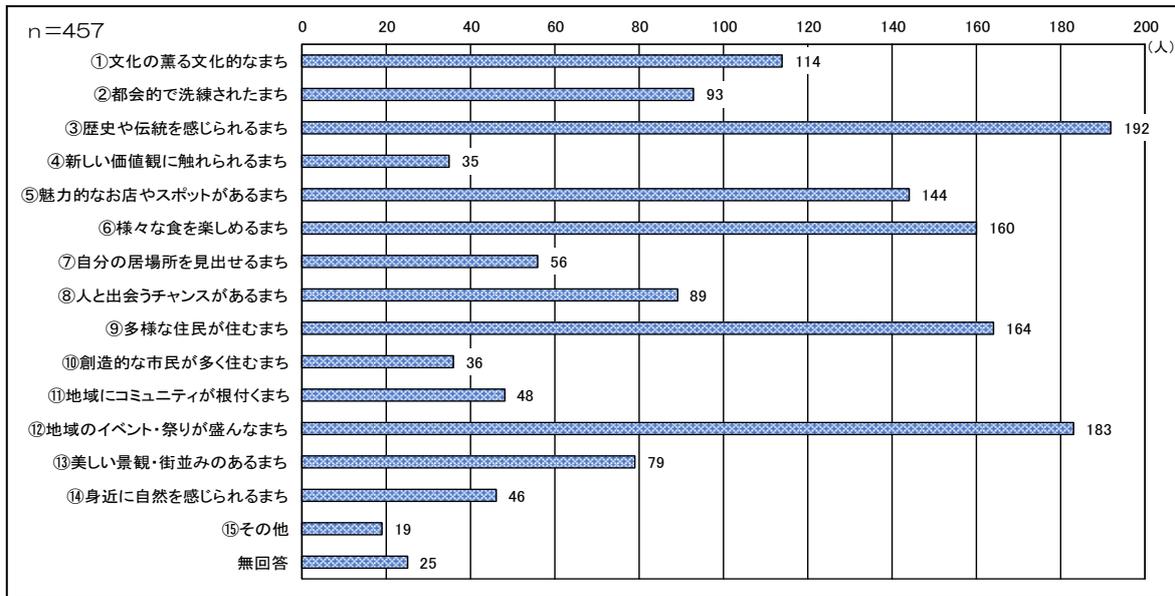


3 那覇市のイメージと魅力(平成30年度基礎調査結果より)

市民が抱く那覇市に対するイメージとまちの魅力につながっている文化資源について、市民アンケートを全体的にみると、以下のような意向が示されています。

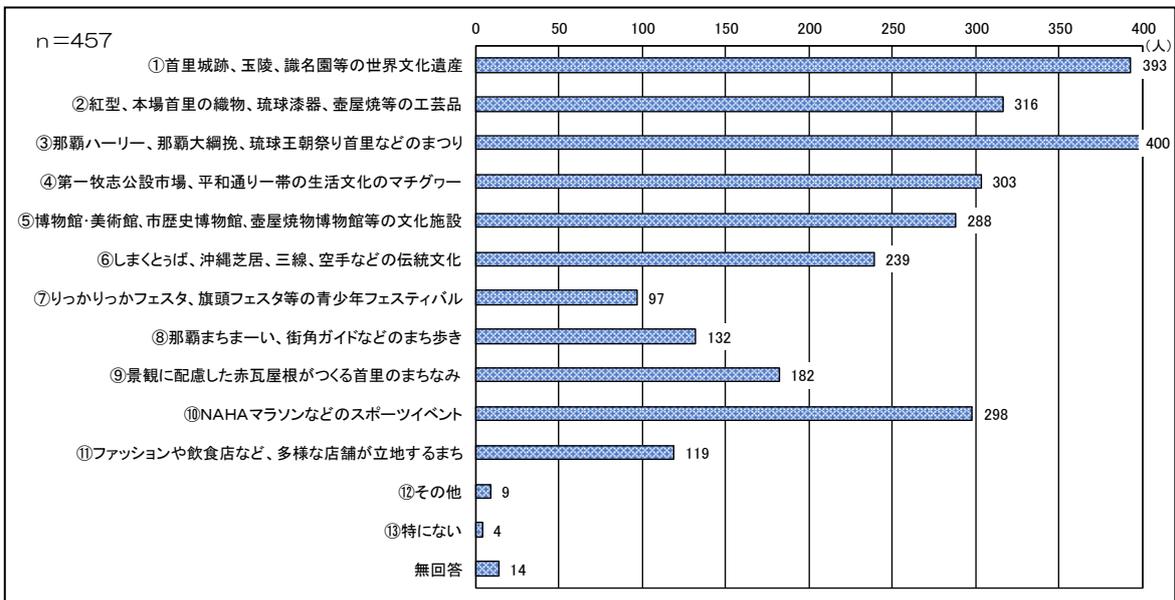
那覇市のイメージについては、「歴史や伝統を感じられるまち」が最も多く、次に「地域のイベント・祭りが盛んなまち」「多様な住民が住むまち」「様々な食を楽しめるまち」などに多くの意向が示されています。一方、「創造的な市民が住むまち」「新しい価値観に触れられるまち」「地域にコミュニティが根付くまち」など、創造性を育むまちのイメージは低い意向となっています。

【那覇市に住んで市のイメージで実感することについて】



那覇市のまちの魅力につながっている文化資源については、「那覇ハーリーなどのまつり」や「世界文化遺産」「伝統工芸」「マチグラー」などに高い意向が示され、また「NAHAマラソンなどのスポーツイベント」も魅力的な資源として認識されていることが伺えます。

【那覇市のまちの魅力につながっている文化資源について】



4 文化活動状況(平成30年度基礎調査結果より)

(1) 那覇市文化協会

那覇市文化協会は、1992(平成4)年4月に設立され、2018(平成30)年3月現在、28の部会があり、総勢2,336人の市民が文化芸術に関わる活動をしています。

【文化協会部会別会員状況(平成30年3月31日現在)】

	部会名	会員数		部会名	会員数
①	華道	30	⑮	演劇	24
②	日本舞踊	173	⑯	大正琴	127
③	フラワーデザイン	14	⑰	古美術骨董	10
④	茶道	82	⑱	八重山芸能	118
⑤	文芸	56	⑲	総合文化	40
⑥	詩吟	220	⑳	ハワイアンカルチャー	309
⑦	写真	32	㉑	新舞踊	124
⑧	古典芸能	435	㉒	琉球王朝禮楽	24
⑨	邦楽	67	㉓	うちなーぐち	15
⑩	美術工芸	40	㉔	空手文化	19
⑪	書道	84	㉕	カラオケ	33
⑫	生活美術	96	㉖	ピアノ	34
⑬	生活文化	38	㉗	オーケストラ	28
⑭	社交ダンス	35	㉘	ジャズ	29
総合計(28部会)					2,336

(2) 公民館活動

市内には中央公民館をはじめ7つの公立公民館があり、定期利用団体は515団体、利用者数は約7,100名が公民館を利用しています(2018(平成30)年度)。

各地区の公民館では、教育・福祉、趣味・生活・教養、スポーツ・レク、芸能・芸術、音楽等の分野において地域ごとの特色のあるサークル活動が多種多様に展開されています。シニア世代をはじめとした各世代において、様々な団体への参加がみられます。

公民館別のサークル及び同好会数は、中央公民館26団体、小禄南公民館80団体、首里公民館92団体、若狭公民館50団体、石嶺公民館56団体、繁多川公民館49団体、牧志駅前ほしぞら公民館162団体が活動しています。沖縄文化関連のサークルはエイサー、琉球舞踊、沖縄民謡、三線、琉球笛、首里言葉(首里)、沖縄語(繁多川)等があります。

【各公民館の沖縄文化関連サークル】

公民館	団体数	沖縄関連サークル等
中央公民館	26	空手、エイサー、琉球舞踊、沖縄民謡、三線
小禄南公民館	80	エイサー、琉球舞踊、沖縄民謡、三線、琉球笛
首里公民館	92	琉球舞踊、首里クエーナ、沖縄民謡、三線、首里言葉、おもろ御そうし、古都首里探訪、御茶屋御殿復元期成会
若狭公民館	50	エイサー、沖縄民謡、
石嶺公民館	56	エイサー、琉球舞踊、沖縄民謡、三線
繁多川公民館	49	空手、エイサー、琉球舞踊、沖縄民謡、三線、沖縄語
牧志駅前ほしぞら公民館	162	空手、エイサー、琉球舞踊(本島・宮古・八重山)、沖縄民謡、三線、琉球笛、陶芸

(3) こども園・保育所等及び学校関連の主な文化活動

①就学前教育・保育施設（こども園・保育所等）

市内こども園や保育所等においては、普段の教育・保育活動や、食育、季節の行事、イベントなどに沖縄の伝統芸能、生活文化を取り入れています。公立こども園においては、園児が伝統文化への興味・関心を高めることや伝統文化の継承を目的に、空手、エイサー、わらべうた、獅子舞、琉球舞踊、三線などの専門講師を招く取組を行っており、園児が学習及び体験した成果をおゆうぎ会やお招き会などで発表しています。また私立保育園等においても、公立と同様に、独自の取組が行なわれています。

②小学校

市内小学校においては、総合的な学習の時間やクラブ活動でうちなーぐちや三線、旗頭、琉球舞踊、茶道、華道、バトンなどを学ぶ機会を創出している学校があります。また一部の学校では、運動会や学習発表会のプログラムにエイサーや旗頭を組み込むことで、児童の伝統文化への興味・関心を高める取組が行われています。そして授業の始めと終わりのあいさつや給食時のあいさつで、うちなーぐちを使用し、うちなーぐちの普及・継承を図る取組を行っている学校もあります。

③中学校

市内中学校においては、那覇ハーリーへの参加や、運動会や学習発表会のプログラムにエイサーや旗頭を組み込むことで、生徒が伝統文化に興味・関心を高める取組が行われている学校もあります。また、一部の学校では授業に空手を取り入れ、伝統文化である空手の継承・発展に寄与しています。

④放課後子ども教室

放課後子ども教室は、小学校の余裕教室等を活用し、放課後や週末等の居場所として設け、地域住民が企画・運営をすることで子どもたちの自主性、創造性等の豊かな人間性を育むとともに地域コミュニティの充実を図る取組です。活動内容は各教室で異なりますが、宿題等の学習支援の他、スポーツや地域文化活動など多岐に渡ります。地域文化ではエイサーや三線、琉球舞、空手、昔遊びなどの他、旗頭、安里フェーンシマ、陶芸、しまくとぅば、沖縄将棋のチュンジーが行われています。

⑤地域学校連携施設

地域学校連携施設は、学校施設を地域住民の学習・文化活動や交流の場として開放し、生涯学習の推進と地域のコミュニティづくり、地域と学校との連携・交流の充実を目的としています。2019(平成31)年4月1日現在、27校が地域学校連携施設を通して学校開放を進めており、学校教育に支障のない範囲で様々なサークル活動、世代間交流、地域交流、子ども会活動、研修会、集会、レクリエーションなどが行われています。

⑥高等学校

・部活動等

沖縄文化に関連する部活団体数は少ない状況ですが、空手部やエイサー部、郷土芸能同好会、旗頭同好会が活動しています。特に空手部は12校中7校に存在し、高校総体や各種大会で一定の実績を収めています。また、ダンス部、ヨガ部など現代的な部活動も一部見られます。

・沖縄関連の課程・専攻

沖縄関連の課程は首里高校の染色デザイン科や真和志高校のクリエイティブアーツコース、小禄高校の普通科芸術教養コースが挙げられます。これらは専門性の高い知識や技術の習得を目的としてカリキュラムが構成され、卒業後は関連する職種に従事する流れが確立しています。

【沖縄関連過程】

首里高校 染色デザイン科	染織工芸の技術・デザイン教育を行う学科として昭和 33 年に設置され、優れた染織文化を継承や染織産業の振興を目的とし、地域社会に立脚しながら、工芸教育を通して生徒の感性を磨き、豊かな創造性を養うことを教育理念とする。第1回卒業生以来継続して開催する「そめおり展」において生徒の作品を発表し、関係者から高い評価を受けている。卒業生は2,000名以上にのぼり、伝統工芸士や産地の中堅技術者をはじめ幅広く活躍している。
真和志高校 普通科・クリエイティブアーツコース	美術教育を通し、表現力を伸ばして感性豊かで創造的な人間を育成する。美術の基本的な知識や技法を習得するとともに、コースとしての特色を生かし、美術系各学校への進学を支援し、専門的技術者の育成を目指す。2年次より次の3つの専攻に分かれる。まんが表現専攻、写真・映像デザイン専攻、陶芸専攻。
小禄高校 普通科・芸術教養コース	音楽、美術、書道、それぞれの専攻を3年間、専門的に学ぶ。各種コンクール等への作品応募および出演する能力を育て、かつ芸術系および文系大学等への進学に対応できる学力を養成する。毎年学年末には展示会及び演奏会や、各専攻の生徒が教師役となり他の専攻の生徒に授業をおこなう「三科交流授業」も実施する。

⑦沖縄県立芸術大学

沖縄県立芸術大学は沖縄独自の歴史と風土で培われた「個性の美と人類普遍の美を追究する」ことを建学の理念に掲げ、美術工芸学部、音楽学部、附属研究所、大学院(修士課程、博士課程)を備える総合芸術大学です。1986(昭和 61)年に開学し、開学から 30 年余の間に 3,700 名余の学生が卒業し、沖縄の伝統芸能に加え、美術、音楽、舞台芸術等の芸術分野における県内の中核的な存在として、芸術文化振興に貢献しています。

【沖縄県立芸術大学学科等】

沖縄県立芸術大学	
学科	美術工芸学部・美術学科(絵画専攻、彫刻専攻、芸術学専攻)、デザイン工芸学科(デザイン専攻、工芸専攻(染分野、織分野、陶芸分野、漆芸分野))、音楽学部・音楽学科(音楽表現専攻(声楽コース、ピアノコース、弦楽コース、管打楽コース、作曲理論コース)、音楽文化専攻(沖縄文化コース、音楽学コース)、琉球芸能専攻(琉球古典音楽コース、琉球舞踊組踊コース))
大学院	造形芸術研究科(修士課程):生活造形専攻(工芸専修)、環境造形専攻(デザイン専修・絵画専修・彫刻専修)、比較芸術学専攻(比較芸術学専修) 音楽芸術研究科(修士課程):舞台芸術専攻(琉球古典音楽専修・琉球舞踊組踊専修)、演奏芸術専攻(声楽専修・ピアノ専修・管弦打楽専修)、音楽学専攻(音楽学専修・作曲専修) 芸術文化学研究科(工期博士課程):比較芸術学研究領域、民族音楽学研究領域、芸術表現研究領域
付属施設	全学教育センター、付属研究所、附属図書・芸術資料館

(4) 市内における文化芸術に関わる事業所・団体等

① 『衣』・『食』・『芸』等に関わる事業所・団体

(ア) 『衣』

『衣』に関わる沖縄に関連した文化活動を行っている事業所・団体は49件あり、洋裁・和裁教室や裁縫業、着付け教室、宝石・貴金属加工卸などが挙げられます。貴金属店(34件)のうち黒真珠や赤珊瑚など沖縄関連の宝石の取り扱い店舗も多く見られます。

(イ) 『食』

『食』に関わる事業所・団体は120件を超え、琉球料理・沖縄料理(店舗73件)、沖縄そば(店舗51件)、料理教室、酒造業(10件)などが挙げられます。国際通りをはじめ各所に沖縄料理の食堂が立地しています。

(ウ) 『芸』

『芸』は、「芸能」、「工芸」、「芸術」、「園芸」に大きく分類しました。

「芸能」に関連した事業所・団体については114件(重複含む)で、音楽全般教室(27件)をはじめ、バイオリンやピアノ教室、邦楽教室、各種ダンス教室(バレエ・日舞等も含む)が挙げられます。沖縄関連では琉球舞踊の研究所(21件)などが活動しています。その他、各種教室以外では私設劇団(5件)やライブハウス(26件)も確認できます。

「工芸」は119件あり、陶工・焼物、漆器、織物、染色工業、三線、和紙、紙工品、瓦、珊瑚、銀器、その他工芸品の製造・販売など多種多様に見られます。壺屋の関連で陶磁器店(18件)も多くあります。

「芸術」は28件あり、絵画教室、書道教室、茶道教室、手芸教室、画廊・ギャラリー等があります。

「園芸」は華道教室(5件)や造園業(25件)が挙げられます。

(エ) 『その他』

上記(ア)～(ウ)に加えて、空手道場(17件)などが挙げられます。

② 文化活動団体

(ア) 『学術・文化』『社会生活』『趣味・スポーツ』

「学術・文化」では、沖縄県文化振興会、沖縄県立芸術大学芸術振興財団、首里振興会、小禄地域振興会、那覇大綱挽保存会、那覇市文化協会、那覇爬龍船振興会などが挙げられます。

「社会生活」では、沖縄県芸術文化振興協会、古都首里のまちづくり期成会、那覇市協働によるまちづくり推進協議会など芸術やまちづくりに特化した団体が挙げられます。

「趣味・スポーツ」では、沖縄県体育協会、沖縄県公園・スポーツ振興協会奥武山公園管理事務所、沖縄県障がい者スポーツ協会などが挙げられます。

(イ) 『琉球古典音楽』『琉球舞踊』『沖縄民謡』『沖縄空手』

市内には、各ジャンルにおける様々な流派が数多く存在します。沖縄の伝統文化の継承と発展を担い続けるとともに、国内外にも発信し、その豊かさを象徴しています。

(5) 那覇市の行事・イベント等

① 年間行事

那覇市の年間行事で代表的なものは「那覇ハーリー」と「那覇大綱挽まつり」、「琉球王朝祭り首里」があります。いずれも沖縄の歴史民俗に根ざし、沖縄の代表的な祭りとして挙げられます。その他、真夏の国際通りを彩る「一万人のエイサー踊り隊」や沖縄の代表的スポーツイベントである「NAHAマラソン」など近年県内外で認知度が高まっている人気イベントも多数開催されています。



「那覇の三大祭り」
 左上：那覇ハーリー 左下：那覇大綱挽まつり 右：琉球王朝祭り首里

② 民間主催イベント

市内では民間が主催するイベントも数多く開催されています。その中には定期開催している国際通り歩行者天国「トランジットモール」、「サンライズマーケット」や「沖縄まーさんマルシェ」、「オキナワマルクト」など参加店舗も来訪客も年々増加傾向にあります。各イベントとも趣向を凝らし、場所や客層を意識したデザイン性の高い出店も多く見られます。また、複数のイベントを同時開催して相乗効果を図る「サクラザカマルシェ」と「Sakurazaka ASYLUM」の組み合わせ事例もあります。開催イベントが拡大する一方で、継続的な運営の難しさや開催時期の偏りについての課題もあります。



毎月第2日曜に開催するサンライズマーケット（同実行委員会主催）

5 文化資源（施設・文化財）

(1) 文化施設等

① 公共の施設における文化芸術活動

市内には、パレット市民劇場をはじめ、那覇市民ギャラリー、那覇市ぶんかテンプス館などのホールやギャラリーが立地し、様々な文化芸術活動が営まれてきました（市民会館は2016(平成28)年に休館）。加えて、那覇市の独自性をもつ「那覇市歴史博物館」や「那覇市立壺屋焼物博物館」、「那覇市伝統工芸館」を有しています。

その他、2015(平成27)年には協働によるまちづくりの拠点となる施設「なは市民協働プラザ」を開設しています。2016(平成28)年に設置された「那覇市津波避難ビル」では、災害から市民の安全を守るための避難施設としての機能に加え、世代間交流を通じて互いに支え、助け合う共助の心を育むといった地域コミュニティ形成の場としての役割として、青少年から高齢者までの交流・居場所づくり等で活用され、地域の絆で防災力を高める事業を展開しています。

また、市内には「沖縄県立博物館・美術館」「ているる」等の県内の広域施設も立地しています。

【市内の主な文化公共施設一覧表(平成29年度現在)】

施設名	設立	規模等	年間利用者	場所	備考
那覇市民会館	1970	・大ホール(1,668名) ・中ホール(800人以下の集会・展示会・講習会等)	—	寄宮	2016(平成28)年10月より休館中 2018(平成30)年10月より久茂地に新施設を建設中。
パレット市民劇場	1991	・収容人数391名 ・音楽、舞踊、演劇等	57,631人	久茂地	パレットくもじ9F
那覇市民ギャラリー	1991	・第1展示室(約87㎡) ・第2展示室(約225㎡) ・第3展示室(約62㎡)	69,477人	久茂地	パレットくもじ6F
那覇市ぶんかテンプス館	2004	・多目的ホール(250名) ・ギャラリー ・会議室1,2(定員50名) ・和室、調理実習室 ・研修室 ・音楽スタジオ1,2 ・レッスンルーム1,2	77,090人	牧志	芸能公演、発表会等 工芸品、写真、絵画等 講演会、セミナー等 着付け教室、お茶会等 講習会等 バンド、楽器演奏等 ダンス、演劇等
那覇市歴史博物館	2006	・特別展示室 ・常設展示室 ・企画展示室	15,112人	久茂地	パレットくもじ4F
那覇市立壺屋焼物博物館	1998	・エントランス ・常設展示室1F ・映像シアター ・常設展示室2F ・企画展示室3F ・図書・講座室3F等	53,154人	壺屋	ニシヌメー広場 湧田の平窯など

施設名	設立	規模等	年間利用者	場所	備考
那覇市伝統工芸館	2004	・特別展示室 ・体験工房、研修会議室 ・販売場、映像コーナー	22,839 人	牧志	ぶんかテンプス館 2F 琉球びんがた、首里織、琉球漆器
中央公民館	1975	・ホール(300 人程度) ・会議室(15 人程度)	18,333 人	寄宮	図書館と併設
小禄南公民館	1982	・ホール(300 人程度) ・視聴覚室(30~40 人程度) ・中研修室(20~36 人程度) ・児童図書室(12 人程度) ・小会議室A(12 人程度) ・小会議室B(12 人程度) ・自習室(24 人程度) ・和室(35 人程度) ・団体連絡室(11 人程度)	58,808 人	高良	図書館と併設
首里公民館	1983	・ホール(300 人程度) ・ピロティ―(100 人程度) ・会議室(50 人程度) ・中会議室(40 人程度) ・視聴覚室(40 人程度) ・児童室(20 人程度) ・和室(40 人程度) ・展示室(約 400 m ²) ・調理室(35 人程度) ・団体室(10 人程度)	82,789 人	当蔵町	図書館と併設
若狭公民館	1992	・ホール(200~250 人) ・第 1 研修室(60 人程度) ・第 2 研修室(30 人程度) ・第 3 研修室(20 人程度) ・実習室(20 人程度) ・和室(20~30 人)	44,391 人	若狭	図書館と併設
石嶺公民館	1996	・ホール(200 人程度) ・第 1 学習室(30 人程度) ・第 2 学習室(30 人程度) ・実習室(25 人程度) ・和室(25 人程度)	31,455 人	石嶺	石嶺文化スポーツプラザ内 図書館と併設
繁多川公民館	2005	・ホール(200 人程度) ・和室(30 人程度) ・研修室(40 人程度) ・研修室(25 人程度) ・実習室(25 人程度)	52,406 人	繁多川	図書館と併設
牧志駅前ほしぞら公民館	2011	・ホール(120 人程度) ・第 1 学習室(40 人程度) ・第 2 学習室(15 人程度) ・第 3 学習室(15 人程度) ・第 4 学習室(30 人程度)	117,144 人	安里	さいおんスクエア 3F 図書館と併設

施設名	設立	規模等	年間利用者	場所	備考
		・実習室(20人程度) ・パソコン室(40人程度) ・工作室(15人程度) ・和室(15人程度) ・プラネタリウム(84人)			
那覇市立中央図書館	1975	・蔵書冊数 174,549 冊 ・登録利用者数 48,100 人	110,431 人	寄宮	公民館と併設
小禄南図書館	1983	・蔵書冊数 85,684 冊 ・登録利用者数 30,634 人	84,505 人	高良	公民館と併設
首里図書館	1984	・蔵書冊数 78,010 冊 ・登録利用者数 25,888 人	42,424 人	当蔵町	公民館と併設
若狭図書館	1992	・蔵書冊数 70,350 冊 ・登録利用者数 25,917 人	39,601 人	若狭	公民館と併設
石嶺図書館	1996	・蔵書冊数 73,550 冊 ・登録利用者数 22,898 人	47,568 人	石嶺	石嶺文化スポーツプラザ内 公民館と併設
繁多川図書館	2005	・蔵書冊数 58,231 冊 ・登録利用者数 7,743 人	31,351 人	繁多川	公民館と併設
牧志駅前ほしぞら図書館	2011	・蔵書冊数 101,090 冊 ・登録利用者数 22,006 人	105,446 人	安里	さいおんスクエア 3F 公民館と併設
なは市民協働プラザ	2015	・会議室(8室:571㎡) ・研修室(2室:68㎡) ・団体事務室(13室:565㎡) ・支援ブース(87㎡) ・事務室(89㎡)	21,584 人 なは市民活動支援センター利用者数	銘苅	なは市民活動支援センター、なは女性センター、なは産業支援センター等併設
那覇市津波避難ビル	2016	・レクリエーションルーム ・ダンスルーム ・音楽スタジオ ・ミーティングルーム	30,783 人	松山	津波避難ビル 3階 平常時、青少年の交流・居場所づくりのため無料で開放
沖縄県立博物館・美術館 *沖縄県	2007	<博物館>(10,478㎡) ・常設展示室 ・特別展示室等 <美術館>(7,537㎡) ・コレクションギャラリー ・県民ギャラリー等	<博物館> 105,531 人 <美術館> 244,329 人	おもろ まち	収蔵資料件数 博物館:94,000 件 美術館:3,700 件
ているる *沖縄県	1996	<複合施設>(15,824㎡) ・ホール(480名) ・会議室 4室(82名)等	164,997 人	西	地下 1F、地上 8F 沖縄県男女参画センター 沖縄県自治研修所等

※「那覇市人材育成支援センターまーいまーいNaha」令和2年4月開館

※「那覇文化芸術劇場なはーと」令和3年度中の開館予定

② 民間の文化施設

民間の文化施設では、会館、映画館、ライブハウス、画廊・ギャラリーなどがあります。特に、沖縄戦や戦後史に関わる民間の資料館(対馬丸記念館、不屈館)が設置されていることが那覇市の特徴としてあげられます。最近では、演劇公演や稽古を行うアトリエ等も開設されています。

ライブハウスは民謡・島唄からロック、オールディーズ、ジャズまで幅広いジャンルの店舗が存在しています。画廊・ギャラリーについては、本格的なアートギャラリーやカフェなどの併設も見られます。

(2) 文化財

市内には「首里城跡」等の世界遺産以外にも、国宝「琉球国王尚家関係資料」、国指定史跡「銘苅墓跡群」、国指定無形文化財「琉球古典音楽」「組踊音楽歌三線」「紅型」「首里の織物」、その他国指定無形文化財(選択)「壺屋の荒焼」等の文化財が多様に存在します。

国県市指定文化財以外にも、首里地域を中心に多くの未指定の文化資源が現存し、加えて、地域に伝わる綱引き等の民俗文化資源も数多く存在します。

【那覇市内指定等文化財件数一覧】

(令和2年5月末現在)

	有形文化財 (89件)											無形文化財 (15件)			民俗文化財 (16件)			記念物 (53件)		選 定 保 存 技 術	登 録 有 形 文 化 財	国 県 市 別 計				
	建造物 (14件)					美術工芸品 (75件)						芸 能	工 芸 技 術	空 手 ・ 古 武 術	選 択	有 形	無 形	選 択	史 跡				記 念 物 (特別名勝含む)	天 然 記 念 物		
	建 造 物 (国 宝)	寺 院 建 築	城 郭 建 築	橋 梁	住 宅 其 他	絵 画	彫 刻	工 芸 品	書 跡	典 籍	古 文 書														歴 史 資 料 (国 宝 含 む)	
国	1			2	1	3			2	2	2	5	5	2		1			2	6	5	2		6	47	
県		1	1	3		1	7	7	36	4	2	3	2	2	3	1			1	7	1	1			83	
市						1			1						1			3	10		28	2	1		49	
計	1	1	1	5	1	5	7	7	39	4	4	7	7	7	6	1	1	3	10	3	41	8	4	0	6	179



世界遺産・国指定特別名勝「識名園」



世界遺産・国宝・国指定史跡「玉陵」

6 那覇市の文化芸術の課題

(1) 市民主体の文化芸術の振興に対する環境整備【基本的施策 1-(1) (2) (3)】P34~36

文化芸術に対する市民意向において(P11~13 参照)、子どもたちが文化的な体験・活動ができる環境に対して、多くの支持が示されています。しかしながら、市民の文化芸術に対する関心は高いものの、自主的な文化的活動への参加状況は活発とは言えず、練習する施設がない、一緒に活動する仲間がいないといった意見があります。市民が主体となり文化芸術活動を行える環境を整備していく必要があります。



プロのミュージシャンの指導のもと小・中学生が演奏する「ふれあいジャズフェスティバル」(～H27)

(2) 地域に伝わる暮らしの文化の継承【基本的施策 1-(4) (5)、2-(1) (2)】P36~40

那覇市は、戦後旧那覇市と首里市、小禄村、そして真和志市が合併し現在の規模に拡大、県都としての都市づくりを進めてきました。都市化が進む中、農村地域の面影はわずかとなりましたが、市の無形民俗文化財に指定されている「首里汀良町の獅子舞」「首里末吉町の獅子舞」「泊地バーリー」「字安里のフェヌシマ」「字安次嶺の村踊り」「字国場のウズンピーラ」「首里のキューナ」「琉球王府の路次楽ろじがく」「字大嶺の獅子舞」「字大嶺の地バーリー」など、地域に伝わる文化が今日まで継承されています。



字大嶺の地バーリー

市内では、「那覇大綱挽」以外に、農村地域であった小禄地区や真和志地区など約10カ所の地域で独自の綱引きが行われています。また、「旗頭」については、「那覇大綱挽」での連携の他、それぞれの地域の誇り、シンボリックな存在として継承され、伝統行事以外にも子どもたちの健全育成を目的に「旗頭」を活用した取組も行われています。一方、地域に伝わる文化や旗頭については、継承の担い手が少ないという現状があります。



那覇大綱挽を我栄(ガーエー)で盛り上げる旗頭

沖縄文化の基層となっている「うちなーぐち」*については、市内でも「首里くとうば」や「小禄くとうば」など多様にそれぞれの地域に伝わってきましたが、2009(平成21)年にはユネスコ(国際教育科学文化機関)により、消滅の危機に瀕する言葉に指定されました。「うちなーぐち」をはじめ、年中行事や食文化など生活に根差した地域に伝わる文化は、都市化やライフスタイルの変化の中で薄れている現状があります。地域のコミュニティづくりや学校教育・生涯学習との連携を通して、担い手の発掘・育成を含め、時代や地域の実情に即した継承を図る必要があります。

*「うちなーぐち」と「しまくとぅば」の表現について

「うちなーぐち」は、広い意味では沖縄本島とその周辺島しょの諸方言をさし、狭い意味では沖縄本島中南部の言葉をさします。しまくとぅばの「しま」は村落、島をあらわすだけでなく「故郷」の意味も持ちます。よって、しまくとぅばとは「故郷のことば」といえます。(しまくとぅば普及センターホームページより参照)本計画では、沖縄本島中南部に位置する那覇市の計画であることや、これまでの事業や取組の中で主に「うちなーぐち」を使用していることを踏まえ、一部を除いて「うちなーぐち」に統一しています。

(3) 多様な文化遺産の継承と保存・活用【基本的施策 2-(1)(2)(4)(5)】P38~42

今日まで脈々と受け継がれている琉球王国文化をはじめとする文化遺産は、幾多の時代変遷の中で消滅の危機がありました。先の沖縄戦で失った多くの貴重な文化財は、戦後、修復・復元され、文化財指定や世界遺産の登録を受け、観光や地域活性化等に大きく寄与してきました。

いまに伝わる多様な文化遺産を那覇市の「財産」として次世代に継承するため、地域の文化財やその周辺環境も含め総合的に保存・活用していく必要があります。

2019(令和元)年10月31日の首里城正殿をはじめとする主要施設が焼失した出来事は、多くの市民、県民に大きな衝撃と深い悲しみを与えました。その悲しみを乗り越え、首里城再建を望む多くの方々からの支援金、寄付金が寄せられ、国、県、市が一丸となって首里城再建に向けた議論を進めています。今回の出来事を、いま一度沖縄の歴史文化を学び直すとともに、復興プロセスにおいて新たな価値が創出される機会として捉えることも出来ます。



焼失前の首里城正殿

(4) 新たな価値の創造を生む文化芸術の持続的展開への基盤づくり【基本的施策 2-(3)】P40

市民が抱く「那覇市に対するイメージ」と「まちの魅力につながっている文化資源」について(P14参照)、「歴史や伝統を感じられるまち」「地域のイベント・祭りが盛んなまち」などに多くの意向が示される一方、「創造的な市民が住むまち」「新しい価値観に触れられるまち」「地域にコミュニティが根付くまち」など、創造性を育むまちのイメージは低い意向となっています。



国際児童青少年演劇フェスティバルおきなわ

文化芸術の持続的展開と新たな価値の創造が生まれる環境を確保するため、文化芸術に携わる芸術家、実演家、職人等の担い手や専門のスキルを持った関係機関と連携し、その基盤づくりに取り組む必要があります。

(5) 文化芸術がもつ社会的価値を生かした取組【基本的施策 3-(1)(2)】P43~45

文化芸術基本法では、文化芸術そのものに意義と価値があることから、文化芸術の振興が重要であるとされています。加えて、人口減少や少子高齢化を背景とした複雑な社会課題への対応が求められている中、文化芸術を社会的に必要な戦略的投資として捉え、文化芸術がもつ社会包摂機能(教育・福祉等)や、観光、産業振興・地域活性化(産業・まちづくり、国際交流等)との多様な連携による新たな価値の創造への期待がもたれています。

市内には、ものづくりに関わる伝統工芸をはじめ、伝統芸能、映画、音楽、演劇、食の他、首里城跡・玉陵・識名園などの世界遺産、那覇ハーリーや那覇大綱挽など、多様な文化芸術資源を有しています。

文化芸術そのものの意義や価値について、市民をはじめ多くの関係者と共通認識を図り、文化と産業の関係性を踏まえ総合的に関連部署や事業者等の関係者と連携し、施策に取り組む必要があります。

(6) 亜熱帯のもつ風土の継承【基本的施策 3-(3)】P45～46

那覇市は全国的にも早くから景観行政に取り組み、「那覇市都市景観条例」(1985(昭和 60)年制定、2011(平成 23)年全部改正)に基づき、都市景観形成地域の指定を行うなど、那覇市の歴史性を踏まえた都市景観づくりを推進してきました。

都市化が進展した中であっても、琉球王国文化を育んできた亜熱帯の風土を生かした景観の継承創出の推進を図る必要があります。

(7) 交流・情報発信【基本的施策 4-(1)(2)(3)】P47～49

那覇市は、空港と港を有することから、国内外の姉妹都市・友好都市提携に伴う交流をはじめ、文化芸術、経済、学術交流活動等の多文化交流が行われており、近年は外国人観光客が急増し、今後、市民レベルで観光来訪者と交流する機会が生まれることが期待されます。また、近隣離島との広域連携についても推進していく必要があります。

国内外の人々が集い交流する都市として情報発信力を高め、相互交流の成果を生み出すため、本市広報紙、公式ホームページや SNS*の他、多様な媒体を活用した本市の魅力あるコンテンツの効果的な発信が求められています。加えて、市内に数多く存在する文化芸術に関わる市民や団体のネットワークづくりや情報交換を促し、より質の高い文化芸術の環境づくりに取り組む必要があります。

* SNS

「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」の略で、人と人とのつながりを促進し、サポートするコミュニティ型の WEB サービスのこと。フェイスブック、ツイッター、ライン、ユーチューブなどが挙げられます。



地域の要望で開設したバーラー公民館は多様なアーティストと触れ合う機会を創出
(提供：NPO 法人地域サポートわかさ主催)



住民や各店舗が景観づくりを取り組む
壺屋やちむん通り



性的マイノリティが生きやすい社会を願い国内外からイベントに集う「ピンクドットオキナワ」

(8) 関連機関との連携【基本的施策 5-2.3】P54～55

那覇市には、文化芸術に関する専門的人材の育成を担う沖縄県立芸術大学のほかアニメーションや服飾デザイン等の専門学校など、専門性をもつ機関が所在しています。加えて、戦後復興期から長年にわたり沖縄の文化芸術の振興に取り組む地元新聞社等をはじめ、企業メセナ活動に積極的に取り組んでいる県内企業もあります。今後、文化芸術と様々な分野との連携をつなぐ、人、組織、技術力など、大学や民間企業等との連携を図る必要があります。



文化芸術の社会的役割について考える
ワークショップ（沖縄県立芸術大学）

(9) 感染症等による新たな災難や危機的な状況における文化芸術活動【その他の基本的施策】P49

新型コロナウイルス感染症拡大により、渡航者に対する制限をはじめ、経済活動の自粛等により、社会・経済活動が激変しているとともに、市民の日常生活においても様々な影響を及ぼしています。社会的距離（ソーシャルディスタンス）の確保をはじめとする「新たな生活様式」は、密集、密接、密室の回避や文化芸術活動の自粛、イベント中止・延期、文化施設の閉鎖、再開時においては収容人数の制限などが求められ、文化芸術を生業とする人々に大きな影響を与えています。今後、コロナ感染症に関わらず、文化芸術活動を脅かす危機に対して、新たな施策を講じる必要があります。